

小中学生作文コンクール 審査員特別賞受賞作品

「生きるとは死ぬことだから」

川口市立神根中学校 三年 中嶋 愛吹

私は今年の梅雨、大切な友達を亡くしました。その夜いつものように愛犬たちと遊んでいると母から、

「これ見て。」

と真っ青な顔で携帯を渡されました。そこには、小学校の友達が急性心不全で亡くなったと書いてありました。私はその時何も言葉が出てこなくて、ただただ涙が溢れるだけでした。

私は最初、身近な友達が突然いなくなったことが全く信じられず、ずっと「また会える」と自分に言い聞かせていました。それはきっと、現実を素直に受け入れられなかったからだだと思いません。

その友だちの夢は、プロ野球選手でした。将来の夢を叶えるために、勉強も運動も一生懸命に頑張る姿はとてもカッコよかったことを今でも思い出します。その他にも会う度に笑顔で手を振ってくれたこと、一緒に交換ノートをしたこと、たくさん思い出が思い出されました。しかし、それと同時にもっと色んなことを話しておけばよかったと後悔もありました。

このように、世界にはたった一瞬で人生を終えてしまう人がたくさんいます。もしかしたら、自分の大切な人が明日いなくなるかもしれません。そして、それは周りの人だけでなく自分自身にも起こりうるごとなのです。つまり、人はいつでも「死」と向き合わなければいけないということになります。

私はこの辛い出来事を経験して、自分の中での約束を三つ決めました。一つ目は、誰にでも優しくすること。二つ目は、何事にも一生懸命になること。三つ目は、どんな時でも笑顔でいること。これは全部、私の思うようになった友だちの長所です。

私はいまでも時々友達の良い笑顔思い出して、寂しくなります。でも、その友達が私に「生きていく」ということがどれだけ素敵なことか教えてくれました。今までは命について深く考えたことがなかったけど、自分を見つめ直し、命の大切さや素晴らしいことを学ぶことができました。だから、命を落としてしまった大切は友達にありがとうの気持ちを忘れず、もっともって生きていくことの幸せを噛み締めながら、精一杯生きていこうと思います。